



**高橋常雄**  
『桑原』昭和60年  
紙本彩色（96・0センチ×160・5センチ）  
郷愁あふれる冬枯れの桑畑。遠景には柔らかな陽を浴びる赤城山が見えます。本市を代表する日本画家・高橋常雄さん

未来への贈りもの  
本市収蔵作品

理容師美容師養成成功労者として、8月1日、厚生労働大臣表彰を受けた。1日、厚生労働大臣表彰を受けた。「教師として当たり前のことをしてきただけなので、身に余る光栄です。先輩方をはじめとする県立聾学校関係者の皆さんに感謝しています。赴任当初は筆談でしか生徒と意思疎通することができず、授業も大変でした。手話の本を何冊も買い、生徒にも教えられながらマスターしたんです。多くの人に支えられて、この受賞につながったと思っています」

市内の理容店で7年間勤めた後、同校理容科実習助手に。働きながら教員資格を取り、現在は高等部教諭。通算26年間、生徒指導に当たってきた。

「理容師は接客の仕事ですから、お客様とのコミュニケーションは欠かせませ



理容師美容師養成成功労者で厚生労働大臣表彰  
出口 ゆき江さん 60歳  
上泉町

先輩や生徒に支えられたおかげ

ん。意思疎通をいかに行うかが大切になります。相手の表情から気持ちを感じ取るなど、あらゆる方法で希望をくみ取り喜んでもらえるようにならなくては。この点が指導のポイントとなります」

9月は障害者雇用支援月間。聴覚障害者の雇用促進に地道な指導が続く。

「生徒が努力を重ねて理容師資格を取り、卒業後、就職したり店を構えたりしたなど、うれしい報告を聞くと、指導する喜びを感じます。来年3月で定年になります。その後、理容関係の仕事に携わっていきたいですね」

休日や仕事帰りにスポーツクラブで汗を流し、健康維持を図っているという。若々しい笑顔、優しい口調で、理容の指導にかける情熱を語ってくれた。

（昭和2年（63年）の晩年の作品です。高橋さんは、昭和2年才川町（現・日吉町）に生まれました。幼い頃から絵を描くことが好きでしたが、本格的に取り組み始めたのは19歳、終戦後の病氣療養中のおきでした。油絵を学んだ後、日本画へ転向し、日本画院や日展で実力を発揮。また、武蔵野美術学校（現・武蔵野美術大学）で研さんを積みました。

昭和49年にはネパールを訪れ、信仰と共に生きる現地の人々を主題とした日本画を数々制作。自ら「ネパール色」と称した茶褐色と金を用いた独特の色彩で高い評価を集めました。

昭和60年に日本美術院最高位の同人となると、それまで10年にわたって描き続けていたネパールの画題を離れ、日本の風景に取り組みます。本作品はその一つで、淡い色調の中に絵に対する気持ちの深さを見ることが出来ます。

この作品が完成した2年後、がんとう宣告されましたが、闘病を続けながら死の直前まで絵に対する情熱を注ぎました。

問い合わせは 文化国際課 ☎0868-5825



**子育ての話題に花が咲く**  
前橋プラザ元気21で8月27日、パパたちによる子育てトークが開催されました。育児をしている父親や夫婦など40人が集まり、和やかに交流。普段、子どもと接している中で思ったことや育児の疑問などについて、経験談を交えながら話し合いました。



**学びのイベントをにぎやかに**  
9月1日・2日の2日間、前橋プラザ元気21で生涯学習フェスティバルを開催しました。各町の広報紙展示や市民のステージ、総社秋元歴史まつりのよろいかぶと試着など、さまざまなイベントを実施。多くの人々が訪れ、楽しい学びの時間を過ごしました。



**中心市街地で古典芸能を堪能**  
中心市街地のイベント広場で、9月1日、「幻想への誘い・能と狂言の世界」が開催されました。能の作法体験には、市立前橋高の生徒たちも参加。仕舞など演舞の披露では、能楽師による舞台を、集まった市民らは熱心に見入っていました。



**保育のパネルや相談コーナー**  
8月31日まで、前橋プラザ元気21で「すこやか保育展」を行いました。市内各保育所（園）の活動を紹介するパネル展示のほか、保育士による相談コーナーも。親子連れなど訪れた人たちはパネルを見たり質問したりして、保育に関する理解を深めていました。